



文 部 省

官專一〇八號

昭和十一年六月十二日

供覧
外國電報

送信次官 富安謙次 殿

文部次官 河原春作

無線電信ニ依ル氣象報等傳送ニ關スル國際規則改正ノ件

三月二十五日附外信第六〇九號ヲ以テ御照會相成タル首題ノ件ニ關シテ
ハ本邦ヨリ提案スヘキ事項無之但シ氣象電報ニ關シ新ニ取極メヲ爲サン
トスル場合ハ本省ノ意見ヲ徵セシメラルル様御取計相煩度此段及回答



JUN 12 1936 JUN 13 1936 698



本紙の總合ハ本管入意見ヲ齎シシメテハハ新報俾指掛取進出對及回答
ハ本紙ヨリ撰案スヘキ事限無之由ニ據案審辨ニ關シ得ニ申進スル旨セシ
三月二十五日閣下請案六〇八號ヲ以テ閣下會掛知ルハ首條ノ并ニ關シテ
無條審判ニ對シ據案審判後ニ關シハ閣下取進出五ノ并

送附大官 富 安 齋 夫 雄

文籍大官 所 取 春 計

御味十一平六月十二日

百華一〇八號

11年3月1日
外信 609
郵政省
東京
11.2.23
10-1

局長

外信課長

逓信省

無線電信衣ノ氣象報等傳送ニ關スル
國際規則改正ノ件

文部次官

逓信次官

(件名)

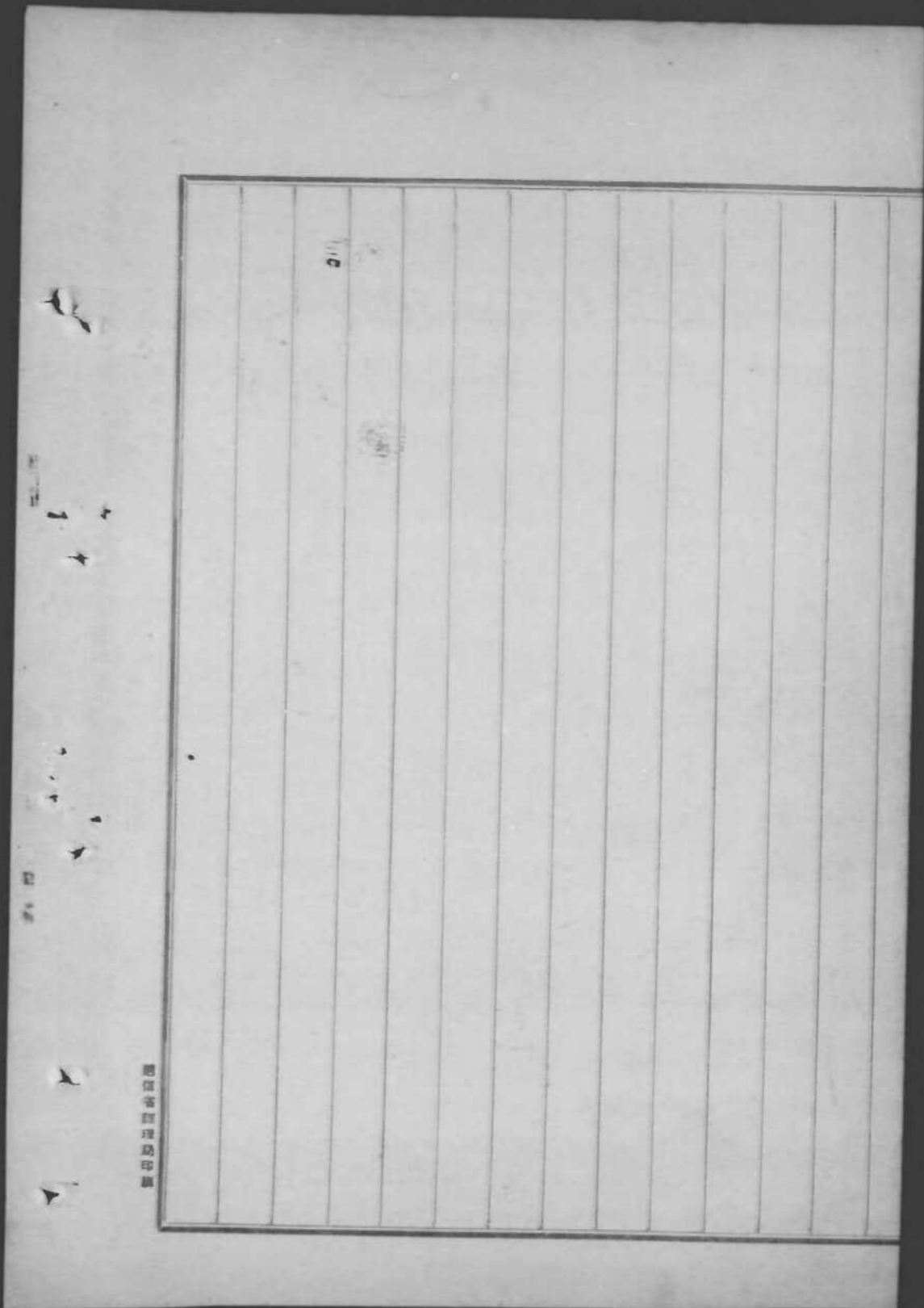
一九三八年二月「カイロ」ニ開催スルベキ國際無線

愛信會議ニ於テハ無線愛信ニ依ル氣象報ヲ報
時信報ノ傳送ニ關スル事項ニ附議セラルル見入
タル
知右氣象報ノ報時信報ノ傳送時刻ノ方法其
ノ他ニ關シ本報則コリ提案スルキ事項アラバ同
示加煩度候

迄テ御意見ニハ仰譯ノ為ニ本報九月末日迄
ニ右者ハ仰送付相成度候

Blank manuscript page with vertical columns.

避
信
省



明治 四 年 四 月 廿 八 日
東京 府 警 務 部 印



(注意) 本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

監無第一四四九三號

昭和十一年七月十五日

電務局長殿

東京遞信局長

國際電信電話及無線通信會議ニ關スル件
外信第五一四號 三月十四日

右無線通信關係意見左ノ通ニ付御諒知相成度
記

一、豫備空中線設備方規定セラレタシ
理由

現在大多數ノ船舶ハ空中線切斷セラレタル場合急速修理不可能ノ
實情ニアル處斯ノ如キ際ハ暴風雨等ニ遭遇シ船舶ノ安全確保上最

通第二十二號

(局信遞京東)

1988 856

251

裏面白紙

(注意)

本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

國日短波無線通信ノ設備ニ關シテ
ノ是レモトク

モ通信連絡ヲ緊急トスルモノト認メラルルニ付船舶局ニ對シ豫備
空中線ノ設備ヲ爲サシムル様規定セラレタシ、
短波無線通信ノ混信緩和ヲ圖ル爲船舶局ニ其ノ本國トノ連絡用短波
周波數ヲ特定スル等ノ方法ヲ講ゼラレタシ、
理由

現在各船舶局ニ於テハ八二八〇 kc/s ノ周波數ヲ主用スル爲其ノ混
信激甚ヲ加ヘツツアルニ付各國毎ニ本國海岸局トノ連絡用短波使
用周波數ヲ特定スル等ノ方法ヲ講ジ短波ノ混信緩和ヲ圖ラレタシ、
三、附屬一般無線通信規則第十九條第一項第六節ヲ左ノ如ク改正セラレ
タシ、

記

尤モ五〇〇 kc/s (六〇〇 m) ノ電波ハ遭難、緊急、安全呼出及應
答ノ信號ヲ妨害セザルコトヲ條件トシテ出入隨通知等無線電報ノ
傳送ニアラザル簡單ナル通信ノ照復ニノミ之ヲ使用スルコトヲ得

通第二十二號

(局信遞京東)

(注意) 本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

理由

現在五〇〇KCSニ於ケル混信激烈ニシテ此ノ儘推移スルニ於テハ通信ノ圓滑ヲ期シ難キノミナラズ不測ノ事故ヲ生ズル虞アルニ付今般無線電報取扱規程等中ニ改正ヲ加ヘラル所アリ、外國無線通信關係ニ於テモ之ニ順應セシメ以テ無線通信ノ圓滑ヲ圖ル要アリト認ム、

四、附屬一般無線通信規則第十六條附錄第九號表ニ局名錄未掲載船舶ニ對スル照合上必要ナル畧語ヲ制定セラレタシ、

畧語

Q R R						問
6	5	4	3	2	1	局名
・	・	・	・	・	・	籍並料金計算者名
・	・	・	・	・	・	船舶
・	・	・	・	・	・	使用周波數
・	・	・	・	・	・	執務時間
・	・	・	・	・	・	局名ヲ變更シタルモノナルトキハ
ナ						答
リ						又ハ通知

通第二十二號

(注意) 本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

理由

局名錄未掲載ノ船舶局トノ照復通信ニハ相當長時間ヲ要スルヲ常トスル處右ハ適當ナル略語ノ制定ナキニ因ルモノト認メラルルニ付可及的通信ヲ簡潔ナラシムル爲適當ナル略語制定ノ要アリト認ム

五 航空業務ニハ短波ヲ主用スルコトトシ之ガ呼出、應答周波數ヲ設定セラレタシ

理由

航空機ハ空中線、通信通達距離及積載量等ノ關係上中波送信機ノ裝置困難ナル實狀ニ付短波ヲ施設シ之ヲ主用セシムルヲ適當ト認ム

附屬一般無線通信規則第二十三條第七項中左ノ通改正セラレタシ、
この上ハトク

第一種船舶局

記

(局 信 遞 京 東)

通第 二十二號

(注意) 本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

第二種船局

第一級無線通信士	一名
第二級無線通信士	二名
一日十六時間 執務ノモノ	第一級無線通信士 一名 第二級無線通信士 一名
一日八時間 執務ノモノ	第一級無線通信士 一名

理由

現行規定ノ最少限員數ヲ以テシテハ相當執務困難ニ付之ガ改正ノ要アリト認ム、

七、濃霧等ニ際シ船舶航行ノ安全ヲ關ル爲船舶ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ其ノ附近ニ在ル他ノ船舶ニ對シ標識符號ヲ發射スル等適當ナル措置ヲ講ジ得ルコトニ規定セラレタシ、

理由

通第二十二號

(局信遞京東)

濃霧等ニ際シ
船舶航行ノ安全
ヲ關ル爲船舶
ニ於テ必要
アリト認メ
タル場合ハ
其ノ附近ニ
在ル他ノ船
舶ニ對シ標
識符號ヲ發
射スル等適
當ナル措置
ヲ講ジ得ル
コトニ規定
セラレタシ

(注意)

本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記載號番號年月日ヲ附記セラレタシ

濃霧等ニ際シ船舶ノ衝突ヲ豫防スル爲無線方位測定規則第二十七條ト全様趣旨ノ規定ヲ設クルヲ適當ト認ム、

八、無線電話放送業務用周波數ヲ少クトモ六〇〇kc/s以上ノ周波數トセラレタシ、

理由

沿岸航行中五〇〇kc/sノ周波數ニ依ル聽守ハ放送無線電話混入ノ爲不能ノ場合アリ(殊ニ米國沿岸ニ於テ甚ダシ)之ガ妨害除去ノ爲受信機ノ選定ニ付考究ノ要アルベキモ一方放送無線電話業務用周波數ヲ適當ニ變更スル要アルモノト認ム

理由

九、對船舶報時放送方法ヲ統一セラレタシ、
空電、混信、感度微弱等ノ場合ニ於テモ報時放送ノ受信ヲ容易ナラシムル爲其ノ方法ヲ統一スルヲ適當ト認ム

十、對船舶氣象放送方法ヲ統一セラレタシ、

無線電話放送業務用周波數ヲ少クトモ六〇〇kc/s以上ノ周波數トセラレタシ、

九、對船舶報時放送方法ヲ統一セラレタシ、

十、對船舶氣象放送方法ヲ統一セラレタシ、

(局信遞京東)

裏面白紙

(注意) 本件ニ關スル照復ハ必ズ本書記號番號年月日ヲ附記セラレタシ

理由

船舶ノ安全確保上直接重要ナル氣象報ハ其ノ様式相異ナル爲船舶
側ニ於ケル不便尠ラザルニ付之ヲ統一スルヲ適當ト認ム、

通第二十二號

(局信遞京東)

裏面白紙

五五

冠者國際長線道有規則等語あり件は閣下
別紙通函仰る御意に任じ申す
此等御意に任じ申す
一は去年其の如

一は去年其の如

七月日

大改通る

此等御意に任じ申す

御意に任じ申す

長原御意に任じ申す

3-1771

258



武田

潮無第二四八號

昭和拾壹年六月廿日

潮岬無線電信局長

潮岬無線電信局用箋

監督課 係長 殿

國際無線通信規則等

改正二回之件

対大改案第四〇二所而報(二、文一〇)

別記及回答候

大共一〇號丙

裏面白紙

裏面白紙

潮岬無線電信局用箋

一、國際電気通信條約附屬電信規則
改正意見ナシ

一、國際電気通信條約附屬一般無線通信規則
改正ノ字アリト認ムル莫ク在ノ如シ

一、オニニ條オナニ項(オニ節オニ節及オニ節)内係、
船舶遭難ノ場所ヨリ遠距離ニ在ル移動業務局ニ
於テハ遭難通信ガ良好ニ取運ハレ且ツ自己ノ発
射ガ遭難通信ニ全ク影響ナシト認ムルニ至リ

大正一〇年

裏面白紙

朝鮮無線電信局用箋

タル時ハ其ノ體取ヲ中止シ得ルコト・シ尙現
ニ遭難通信ガ取行ハレツ・アル以外ノ周波数ナラ
ハ形式B、形式A一又ハ形式Aニノ電波ニ於テモ一般
通信ヲ開始スル支ナキコトニ改正セラレタシ
理由

近時無線機器ノ進歩ニ伴フテ感應距離著シ
ク擴大セル爲 極ナク遠距離ノ遭難通信ニ感
應シ其ノ遭難通信ニハ全ク固保 ナキ場合ニ
アリテモ尙一般通信ヲ停止スル 実状 ナルガ
如斯ハ不必要ノ範圍ニ迄通信業務ヲ停止
スルモノト謂フヘク改正ノ要 ナク分ニアルヲ認ム

大正一〇號内

秘

國際無線電信條約附屬一般規則及追加規則ニ對スル本邦修正提案

國際無線電信條約附屬一般規則及追加規則ニ對スル本邦修正提案

本規則中メートルヲ以テ表示スル電波長ヲ削除ス

第一條

「特別業務」ノ項中「報時信號ノ發射」ノ次ニ「氣象報ノ傳送、各局宛新聞報ノ傳送」ヲ加フ

理由 他ノ條項トノ關係ヨリ追加ス

第二條

第一項 刪除（條約中ニ移スヘシ）

理由 內容比較的重要ナル爲

第二項中「電信及電話ノ何レニ付テモ」ヲ刪除

理由 電信、電話以外ノ通信ニ就テモ同一ナラシム

第三條

第一項ノ次ニ左記ヲ加フ

一ノ二 各主管廳ハ無線電氣局ニ於テ使用スル周波計ノ統一ノ爲周波數標準器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ較正精度ハ少クトモ十萬分

ノ一 (100000) ナルコトヲ要ス

尙主管處ハ其ノ標準器ノ精度増進ノ爲不審ノ改良ニ努力スル
 共ニ主管處相互間ニ於テモ其等ノ差異ヲシテ最小ニ保ツル比較
 ヲ行フモノトス

理由 周波計ノ精度ノ増進ヲ計ル爲

第四條

第一項第二節中「型式A三」ノ次ニ左記ヲ加フ

型式A四 寫眞電送電波 寫眞電送機ニ依リ變調セラレタル持續電波

理由 實際ト一致セシムルカ爲

同項第二節内「A一、A二及A三」ヲ「A一、A二、A三及A四」ニ改ム

同節五節ヲ左記ノ通改メ第六節ヲ追加ス

三

(四) 電波ハ一秒時ノ「キロサイクル」(kc/s)ニ於ケル周波數ヲ以テ之

ヲ表示ス

理由 電波表示ノ正確ト簡單ヲ期スル爲

周波數ニ依ル電波ノ分類左ノ如シ

名 稱	周 波 數
長 波	一〇〇 kc/s 未満
中 波	一〇〇 以上 一五〇〇 kc/s 未満
中 短 波	一五〇〇 以上 六〇〇〇 未満
短 波	六〇〇〇 以上 三〇〇〇〇 kc/s 未満
超 短 波	三〇〇〇〇 kc/s 以上

理由 G G I R ノ決議ヲ認メムトス

第五條

第三項ヲ左記ノ通改ム

三 主管廳ハ又各種ノ業務ニ付制限ヲ與フル指針トシテ周波數帯ノ

割當表(第七項參照)ヲ認ムルコトニ同意ス

理由 經過規定ヲ削除ス

第四項 削除

理由 同上

第五項 但シ以下削除

理由 同上

五

第六項 但シ以下削除

理由 同上

第八項ヲ左ノ通改ム

八 (一) 型式B電波ノ使用ハ左記周波數ニ限リテ許可ス

三七五、四一〇、四二五、四五四、五〇〇及一三六四 kc/ø

六

(二) 型式Bノ電波ノ發射機ハ該發射機ガ全電力ヲ以テ備作スルトキ之ニ結合シアル空中線ニ於ケル電力一〇〇「ワット」未満ノ場合ニ限り且船舶上ニ於テノミニ新ニ之ヲ設備スルコトヲ得但シ右装置ハ小船舶以外ノ船舶ニ於テ常用装置トシテ設備スルコトヲ得ズ主管艦ハ型式B電波發射機ヲ常用装置トシテ設備シ得サル船舶ノ範圍ヲ定ムル義務アルモノトス

(三) 前節ニ規定スル船舶局ヲ除ク一切ノ無線電氣局ニ於テハ自今型式Bノ電波ノ發射機ヲ新ニ設備スルコトヲ得ズ

(四) 型式Bノ電波ノ使用ハ前記第二節ニ規定スル以外ノ船舶局ニ對シテハ千九百四十年一月一日ヨリ又一切ノ陸上局及固定局ニ對シテハ千九百三十五年一月一日ヨリ之ヲ禁ズ

理由 型式B電波ノ使用ヲ明ニセムトス

七 八

第十五項ノ次ニ左記ヲ加フ

十五ノ二 主管艦ハ固定業務専用トシテ割當テラレタル六〇〇〇〇^{ko/s}ヲ越ユル周波數番ニ於テハ成ルベク五ノ整數倍ノ「キロサイクル」數ニテ示セル周波數ノ外割當テザルモノトス

理由 CGIRノ決議ヲ認メムトス

第十七項第一節ヲ左記ノ通改ム

十七(一) 各主管廳ハ三七・五^{ko/s}未滿ノ長波及固定業務用、固定移動業務用並ニ無線放送業務用ノ周波數帶ニ於ケル短波ノ一定周波數ノ使用ガ廣キ地域ニ國際的混信ヲ惹起スル虞アル場合ニ於テ運用上當時ノ業務ノ爲ニ該周波數ノ割當ヲ必要トスル無線通信局ノ設置ヲ決定又ハ許可スルトキハ直ニ之ヲ總理局ニ通知ス此ノ通知ハ附錄第九號ニ依リ之ヲ爲シ且右ノ周波數ノ採用ニ對シ一ノ主管廳ガ爲スコトアルベキ抗議ヲ處理シ得ル様該局ノ建設前四月乃至一年內ニ總理局ニ到着スルコトヲ要ス

理由 短波ノ使用漸ク繁カラムトスルヲ以テ其ノ國際的使用ヲ明ニセムトス

同第二節 削除

理由 第一節修正ノ結果

同第三節中「相當期間」ヲ「豫定期日」ニ改ム

理由 意味ヲ明瞭ナラシム

同第三節ノ次ニ左記ヲ加フ

(四) 各主管廳ハ第一節ノ業務ヲ開始シタル場合ハ直ニ其ノ期日ヲ總理局ニ通知スルコトヲ要ス

理由 電波使用ノ狀態ヲ明カナラシムル爲

第七條

本條第一項第一節及第六項第三節中「入力三〇〇「ワット」」ヲ「空中線電力一〇〇「ワット」」ニ改ム

理由 電力表示ノ方法ヲ變更シタル爲

第三項丙特別證明書第一節(イ)中「及移動局ノ一般通信」ヲ削除

理由 意味ヲ明瞭ナラシムル爲

第九條

第四項ヲ左記ノ通改ム

(一) 海上移動業務ノ局ハ原則トシテ通常通信電波ヲ使用シ通信ノ

傳送ヲナスモノトス

(二) 呼出局ガ呼出ニ使用シタル電波ト異ル電波ヲ以テ通信ヲ傳送セムトスルトキハ該局ハ呼出手續中自局ノ呼出符號ノ次ニ其ノ傳送ニ使用セムトスル電波ノ型式及周波數ヲ示ス數字ヲ傳送ス此ノ事項ノ傳送ナキトキハ該局ハ呼出ニ使用シタル電波ヲ使用スルコトヲ示スモノトス

(三) 呼出局ガ通信ノ傳送ニ使用セムトスル電波ヲ被呼局ニ於テ受信シ得ザルトキハ其ノ旨相當略語ヲ以テ通知シ電波ノ使用ニ付協定ス

(四) 第二節及第三節ノ規定ハ被呼局ガ通信ヲ傳送セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

理由 移動業務ノ通信ニハ通常通信電波ヲ使用スルコトトシ其ノ他電波使用ノ方法ヲ簡明ナラシム

四ノ二 (一) 、、、、、——ナル通信完了及呼出符號ハ先ツ一局ニ於テ通信ニ使用シタル電波ヲ以テ之ヲ傳送シ他ノ一局ニ於テハ之ニ引續キ其ノ業務ニ割當 フレタル呼出電波ヲ以テ之ヲ傳送ス

(二) 、、、、、——ナル通信完了符號ハ一般情報、氣象報、安全通報等ノ傳送ヲ完了シタル場合及後私受信^レ 要シ又ハ受信^レ 要セザル長距離無線通信業務ニ於テモ之ヲ使用ス

理由 通信完了符號ノ使用方ヲ合理的ナラシメ且其ノ用途ヲ擴張セムトス

第五項ヲ左記ノ通改ム

五 (一) (1) 海上移動業務ノ通信ニ於テハ五〇〇 ko/sノ周波數ニ於ケル二局間ノ繼續通信ノ時間ハ約十分時ヲ超過スルコトヲ得ズ此ノ各時間ノ後場合ニ依リ他局ヲシテ先順位ノ呼出ヲ爲シ又ハ先順位ノ電報ヲ傳送セシムル爲休止ノ時間ヲ置クコトヲ要ス

(2) 海上移動業務ニ於ケル五〇〇 ko/s以外ノ周波數ニ依ル繼續通信ノ時間ノ長サハ海岸局之ヲ決定ス二船舶局間ノ通信ノ場合ニ於テハ繼續通信ノ時間ノ長サハ受信局之ヲ決定ス

(二) (4) 航空移動業務ニ於テハ三三三 ko/s又ハ其ノ航空路ニ許可セラレタル電波ニ於ケル繼續通信ノ時間ハ約十分時ヲ超過スルコトヲ得ス

(四) (1)ニ規定シタル場合ノ外航空機局間ノ通信ニ於テ繼續通信ノ時間ノ長サハ受信航空機局之ヲ決定ス但シ航空局ハ右ノ指圖ニ關與スルコトヲ得航空局及航空機局間ノ關係ニ於テ繼續通信ノ時間ノ長サハ航空局之ヲ指圖ス

理由 海上移動業務ニ於ケル繼續通信ノ關係ヲ明ニシ航空移動業務ニ於ケル關係ヲ補足ス

第十一條

第一項中「籍移動局」ヲ「一切ノ局」ニ改ム

理由 無用ナル符號ノ交換ハ一切ノ局ニ禁スル要アルヘシ

第三項中「呼出符號」ノ次ニ「又ハ局名」ヲ加フ

理由 未タ呼出符號ヲ附セラレサル局アルヘシ

第十三條

第一項ニ左記ヲ加フ

(二) 陸上局ノ地圖

(本) 周波数表

理由 實際ニ應ゼシムル爲

第四項第一節(ホ)、第五項甲(ハ)、第六項(ホ)及第九項(ホ)中「メートルアム
ヘアールヲ以テ表シタル通常輻射能力又ハ之ヲ缺クトキハ空中線ノ高さ及
空中線ノ底都ニ於ケル電流ノ強サ」ヲ「空中線電力」ニ改ム

理由 G G I R ノ意見ヲ認メムトス

第十項ニ左記ヲ加フ

○ 官用通信ノミヲ行フ局

㊦ 私用通信ノミヲ行フ局

ハニ キロワフト

理由 實際ニ一致セシムル爲

第十四條

第一項中「條約第二條第一項ニ掲クル固定局、陸上局及移動局並ニ私設
實驗局」ヲ「一切ノ無線通信局」ニ改ム

理由 一切ノ無線局ニ呼出符號ヲ有セシムルヲ可ト認ム

第二項左記ヲ加フ

(本) 其ノ他ノ局三文字又ハ四文字

理由 第一項修正ノ結果

第十五條

第四項 削除（條約中ニ移スヘシ）

理由 内容比較的重要ナル爲

第十六條

第一項 削除

理由 重複規定ナリ

第二項第一節ヲ左記ノ通改ム

二 (一) 船舶又ハ海上ノ航行ヲ爲ス航空機上ニ設備シタル各局ハ該船舶又ハ航空機ガ國際協定ニ依リ無線電氣機ヲ義務的ニ設備シタル場合五〇〇 kc/s 型式 A 二又ハ B ノ電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ要ス前記ノ船舶局ハ尙三七五 kc/s 型式 A 二又ハ B ノ電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ要ス

理由 意味ヲ明瞭ナラシムル爲

第二項第一節ノ次ニ左記ヲ加フ

(二) 船舶局ニ於ケル五〇〇、三七五及一四三 kc/s 以外ノ電波ノ一ハ之ヲ該局ノ通常通信電波トス

理由 國際公衆通信ハ五〇〇、三七五及一四三 kc/s 以外ヲ以テ行

ハシメムトス

項第二節ヲ左ノ通改ム

(一) 航空機局ガ國際協定ニ依リ無線電氣機ヲ義務的ニ設備シタル場
合ハ三三三三 kc/s 型式 A 二又ハ A 三ノ電波ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコト
ヲ要ス

理由 小航空機使用電波ハ隨意トス

第三項第二節削除

理由 重複規定ノ爲

同第三節 削除

理由 同 上

同第四節 削除

理由 同 上

一一一

第四項ヲ左記ノ通改ム

四 一二五乃至一五〇 kc/s ノ型式 A 一ノ電波ノ傳送ニ對シ移動業務ノ局
ニ設備セラレタル一切ノ機器ハ一四三 kc/s ノ外右ノ周波數帶中ヨリ選
定シタル少クトモ二箇ノ周波數ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコトヲ
要ス

理由 實際ニ適應セシムル爲

第六項中「入力三〇〇「ワット」」ヲ「空中線電力一〇〇「ワット」」
ニ改ム

理由 電力ノ表示方ヲ變更シタル爲

一一二

第十七條

第一項第一節刪除

理由 重複規定ノ爲

第十九條

第二十五項、第二十六項及第二十七項ヲ左記ノ通改ム

二十五 安全信號ハ各字ヲ明ニ分離シテ三回傳送スル「ヨヨヨ」ナル
集合次ニ「ロロ」ナル語及三回傳送スル送信局ノ呼出符號ヨリ成ル
右ノ信號ハ該局ガ航行ノ安全ニ關スル電報又ハ重要ナル氣象警報ヲ
傳送セムトスルコトヲ示ス

二十五ノ二 安全信號ヲ認メタル一切ノ局ハ安全通報ガ終了スル迄沈
黙ヲ守リ聽守ヲ繼續スルコトヲ要ス

二三

二四

二十六 安全信號及安全通報ハ海上移動業務ノ局ニ於テハ五〇〇ko/sノ
電波ヲ以テ航空移動業務ノ局ニ於テハ三三三ko/sノ電波ヲ以テ之ヲ傳
送ス

二十七 安全信號及安全通報ハ直ニ之ヲ傳送シ且最近ノ沈黙時間ノ終
末ニ之ヲ反覆スルコトヲ要ス右反覆ハ沈黙時間ノ終末ニ安全信號ヲ
傳送シ沈黙時間ノ終了後直ニ右通報ノ傳送ヲ始ム

理由 意味ヲ明瞭ニシ且其ノ取扱方法ヲ改善ス

第二十二條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

第二十五條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

第二十八條

第二項中「國際業務ヲ取扱フ局」ヲ「國際業務ヲ取扱フ海上移動業務ノ局」ニ改ム

理由 意味ヲ明確ナラシム

第二十九條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

第三十條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

第三十一條

第三項中「沈黙時間ヲ終ニシテ」ヲ「沈黙時間ヲ終了後」ニ改ム

理由 第十九條第二十七項（新）ト。矛盾ヲ避ケル爲メ

第三十二條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

第三十四條

本條 削除（電信規則中へ移スヘシ）

附錄第三號中「メートルアムペア」ヲ以テ表シタル通常輻射能力及空
中線ノ高キ及底部ニ於ケル電流ノ強サレヲ「空中線電力」ニ改ム

附錄第四號左記ノ通改ム

- 一 判讀不能
- 二 判讀困難
- 三 微弱ナルモ判讀可能
- 四 判讀可能
- 五 良好
- 六 可成リ強感

七一強感

八一極メテ強感

九一高聲器ヲ動作スル程度ノ強感

附録第八號ニ手續丁中「數字三箇（〇〇〇乃至三五九）ノ集合ヲ傳送ス
」一數字三箇（〇〇〇乃至三五九）ノ集合又ハ經緯度ヲ以テ示ス移動局
ノ位置ヲ傳送ス」ニ改ム

理由 移動局ノ位置ヲ經緯度ヲ以テモ表示スルコトトス

二九

114

附録第九號ヲ加フ

附録第九號周波數ノ通告

一、周波數（ kc/s ）

二、局名

三、呼用符號

四、空中線電力（ kw ）

五、發射型式（A1 A2 A3 A4）

六、送信局ノ地理的位置

七、場合ニ依リ變調周波數（ kc/s ）

八、通常通信速度

九、空中線指向性

七、業務ノ種類及通信ヲ豫定シタル相手國名

十、落成豫定期日

三、業務開始期日

三一

三二

追加規則第二條、第三條、第四條、第五條、第六條及第七條削除（電信規則中へ移スヘシ）

三八八号

譯文

「ベルヌ」一九三六年一月二十日

(無線部) 回章第三八八號

選信省

電務局長殿

國際電氣通信聯合事務局長

一九三八年「カイロ」國際無線通信會議ニ關スル件

拜啓 「マドリッド」ニ開催セラレタル國際電信會議及國際無線

電信會議ハ一九三二年十二月五日ノ合同總會ニ於テ左ノ事項ヲ決

議セリ。

一、次回會合ハ各部トモ主管總會議タルベキコト

二、二箇ノ別々ノ會議トナスベキコト

三、是等二箇ノ會議ハ「カイロ」ニ於テ同時ニ開催スベキコト

裏面白紙

回章三八八号

譯文

「ベルヌ」一九三六年一月二十日

(無線部) 回章第

國際電氣通信聯合事

電務局長殿

一九三八年「カイロ」國際無線通信會議ニ開
拜啓 「マドリッド」ニ開催セラレタル國際電信會
電信會議ハ一九三二年十二月五日ノ合同總會ニ於テ
議セリ。

- 一、次回會合ハ各部トモ主管廳會議タルベキコト
- 二、二箇ノ別々ノ會議トナスベキコト
- 三、是等二箇ノ會議ハ「カイロ」ニ於テ同時ニ開催ス

一九三五年五月二十八日附同章第三六九號ヲ以テ埃及政府ニ於テ
ハ一九三八年二月一日ニ右會議（國際電信電話會議及國際無線通
信會議）ヲ開會スルコトニ決シタル旨御通知申上ゲタリ
國際電氣通信條約第十七條第二項（イ）ハ會議ノ準備事務ヲ聯合事
務局ニ課シ居レリ

準備事務ノ中最モ重要ナルモノハ諸主管廳ガ會議ノ討議ニ附セン
ト欲スル提案ヲ集録シ之ヲ印刷スルゴトナリ

此ノ仕事ニハ充分早クヨリ着手シ諸主管廳ガ先ヅ自己ノ提案ヲ提
出シ次イテ聯合事務局ニ於テ印刷スル提案集ニ依リ他主管廳ノ提
案ヲ研究スルニ必要ナル時間ヲ與フルコトヲ要ス
御承知ノ如ク聯合事務局ハ一九三六年十二月ヨリ「ブカレスチ」

ニ於テ一九三七年春開催セラルルC・C・I・Rノ會合中ニ討議セラルベキ主宰主管廳ノ報告書ヲ印刷スルヲ要ス。從ツテC・C・I・Rノ準備ト「カイロ」國際無線通信會議ノ提案錄ノ準備トヲ同時ニ行フ必要アリ。故ニ遅クトモ一九三六年十一月一日迄ニ提案ノ送付ヲ受クルコトガ好都合ナリ

聯合事務局ハ此ノ件ニ關シ埃及主管廳ト打合ヲ爲セリ且右主管廳ノ同意ヲ得テ今ヨリ「カイロ」國際無線通信會議ノ爲ニ無線通信一般規則及追加規則ニ關スル提案ヲ準備セラルルコトヲ聯合加入各主管廳ニ依頼ス

是等ノ提案ハ佛語ヲ以テ紙ノ一面ノミニ記載シ二部トシテ一九三六年十一月一日迄ニ送付セラルルコトヲ要ス。

一般規則附録第十四號ノ事項ニ關シテ提案ヲ爲サルル主管廳ハ附録第十四號ニ依ルコトトナリC・C・I・R意見其ノ五十五ノ内容ヲ基礎トシテ提出セラレタシ
共同ノ利益ノ爲ニ右ノ期日ヲ遵守セラルルコト肝要ナリ
且「カイロ」國際無線通信會議ノ提案ヲ深ク研究セシメ其ノ事務ヲ促進セシムル爲ニ諸主管廳ガ提出セント欲スル提案ハ悉ク提案録中ニ集録セラレ且前提案ヲ變更、修正、補足又ハ結合スル提案ノミガ追加提出セラルルコトヲ切望ス
同一ノ見地ヨリ提案ハ對象トスル規則ノ本文ノ形式ヲ有スルコトヲ勸奨ス

印刷ガ終リ次第悉ラク一九三七年春トナルベキモ聯合事務局ハ關

裏面白紙

逕信省

係主管廳ニ提案録ヲ送付スベシ。提案録ヲ無料配付部數以上ニ希
望セラルル主管廳ハ其ノ部數御通知相成度シ、事務局ニ於テハ其
レニ因リテ印刷部數ヲ決定スベシ。

敬白

一九三八年「カイロ」ニ於ケル國際電信電話及無線通信會議提案準備

電務局外國電信課

國際電信電話及無線通信會議提案準備

第一 電信、電話關係

一、國際電信、電話規則ニ對スル本邦提案作成

電務 外信
工務 線路

十月三十日迄

二、本邦提案作成ニ關シ電務局、工務局協議會

十一月一日ヨリ
十一月十五日迄

三、提案取纏伺案作成

(外 信)

十二月一日迄

四、本邦提案上局ノ決裁ヲ仰クコト

五、譯文作成發送

(外 信)

十二月二十五日迄

六、擔當者

電務局

野村事務官

町田書記

辻書記

宮本事務官

竹越 屬

森田 屬

工務局

篠原(清)技師

島田技師

國廣技手

大橋技師

松前技師

許斐技師

G. O. I. T 及 C. C. I. P 各電信電話諮問委員會總會(本年秋)以後ニ追加提案ヲ爲ス要アル場合ハ別途伺出ノコトトス

第二 無線通信關係

七、關係局課意見、提案作成

航空	管船	工務	電務
技監	船船	無線	無線
術理			外信

八、提案作成ニ關シ電務局外國電信課、無線課打合ハセ

六月二十五日ヨリ
七月四日迄

九、提案作成ニ關シ電務局、工務局協議會

七月五日ヨリ
七月三十日迄

十、提案作成ニ關シ電務局、工務局、管船局、航空局協議會

八月一日ヨリ
八月十日迄

十一、遞信省案取纏作成

(外信) 八月十五日迄

十二、本邦提案ニ關シ關係省會議準備(通知)

八月二十日迄

十三 關係省係官會議

八月二十五日ヨリ
九月十日迄

十四 本邦最終提案作成

(外 信) 九月十五日迄

十五 本邦提案上局ノ決表ヲ仰クコト

十六 譯文作成發送

(外 信) 十月十五日迄

十七 擲書者

電務局

野村事務官 町田書記 藤原書記
長津事務官 鈴木 屬 石川 屬

工務局

小野技師 松前技師 稻波技師
網島技師 金子技手 橋本技手

管船局

島居事務官 生島技師

航空局

守屋事務官 帆足 屬

C・C・I・R無線諮問委員會總會(明春)以後ニ追加提案ヲ爲
ス要アル場合ハ別途伺出ノコトトス

「ベルヌ」一九三六年一月二十日（無線部）回章第三八八號

國際電氣通信聯合事務局長

雷務局長殿

一九三八年「カイロ」國際無線通信會議ニ關スル件

拜啓 「マドリッド」ニ開催セラレタル國際電信會議及國際無線電信會議ハ一九三二年十二月五日ノ合同總會ニ於テ左ノ事項ヲ決議セリ。

一、次回聯合ハ各部トモ主管應會議タルベキコト。

二、二箇ノ別々ノ會議トナスベキコト。

三、是等二箇ノ會議ハ「カイロ」ニ於テ同時ニ開催スベキコト。

1

一九三五年五月二十八日附回章第三六九號ヲ以テ埃及政府ニ於テハ一九三八年二月一日ニ右會議（國際電信電話會議及國際無線通信會議）ヲ開會スルコトニ決シタル旨御通知申上ゲタリ。

國際電氣通信條約第十七條第二項（イ）ハ會議ノ準備事務ヲ聯合事務局ニ課シ居レリ。

準備事務ノ中最モ重要ナルモノハ諸主管應ガ會議ノ討議ニ附セント欲スル提案ヲ集録シ之ヲ印刷スルコトナリ。

此ノ仕事ニハ充分早クヨリ着手シ諸主管應ガ先ヅ自己ノ提案ヲ提出シ次イテ聯合事務局ニ於テ印刷スル提案集ニ依リ仲主管應ノ提案ヲ研究スルニ必要ナル時間ヲ與フルコトヲ要ス。

細承知ノ如ク聯合事務局ハ一九三六年十二月ヨリ「ブカレスチ」ニ於
テ一九三七年春開催セラルルC・C・I・Rノ會合中ニ討議セラルベ
キ主宰主管廳ノ報告書ヲ印刷スルヲ要ス。從ツテC・C・I・Rノ準
備ト「カイロ」國際無線通信會議ノ提案錄ノ準備トヲ同時ニ行フ必要
アリ。故ニ週々トモ一九三六年十一月一日迄ニ提案ノ送付ヲ受クルコ
トガ好都合ナリ。

聯合事務局ハ此ノ件ニ關シ埃及主管廳ト打合ヲ爲セリ且右主管廳ノ同
意ヲ得テ今ヨリ「カイロ」國際無線通信會議ノ爲ニ無線通信一般規則
及追加規則ニ關スル提案ヲ準備セラルルコトヲ聯合加入各主管廳ニ依
録ス。

是等ノ提案ハ佛語ヲ以テ紙ノ一面ノミニ記載シ二部トシテ一九三六年
十一月一日迄ニ送付セラルルコトヲ要ス。

一般規則附錄第十四號ノ事項ニ關シテ提案ヲ爲セル主管廳ハ附錄第
十四號ニ依ルコトトナリO・O・I・R意見其ノ五十五ノ内容ヲ基礎
トシテ提出セラレタシ。

共同ノ利益ノ爲ニ右ノ期日ヲ遵守セラルルコト肝要ナリ。

且「カイロ」國際無線通信會議ノ提案ヲ深ク研究セシメ其ノ事務ヲ促
進セシムル爲ニ該主管廳ガ提出セント欲スル提案ハ悉ク提案錄中ニ集
録セラレ且前提案ヲ變更、修正、補足又ハ結合スル提案ノミガ追加提
出セラルルコトヲ切望ス。

同一ノ見地ヨリ提案ハ対象トスル規則ノ本文ノ形式ヲ有スルコトヲ勸
奨ス。

印刷ガ終リ次第悉ラク一九三七年春トナルベキモ聯合事務局ハ關係主
管處ニ提案録ヲ送付スベシ。提案録ヲ無料配付部數以上ニ希望セラレ
ル主管處ハ其ノ部數御通知相成度シ、事務局ニ於テハ其レニ因リテ印
刷部數ヲ決定スベシ。

敬
白

460

C O P Y

BUREAU DE L'UNION INTERNATIONALE
DES TELECOMMUNICATIONS

SERVICE DES RADIOCOMMUNICATIONS

Berne, le 20 janvier 1936.

Circulaire n° 388.

Conférence internationale des
radiocommunications du Caire, 1938.

Monsieur le Directeur général,

Dans leur assemblée plénière commune du 5 décembre 1932, la
Conférence télégraphique internationale et la Conférence radiotélégraphique
internationale, réunies à Madrid, ont décidé:

que la prochaine réunion - pour chaque section des télécommu-
nications - sera administrative,

qu'il s'agit en l'espèce de deux conférences séparées,
que ces deux conférences auront lieu simultanément au Caire.

Par notre circulaire n° 369, du 28 mai 1935, nous avons eu
l'honneur de vous informer que le Gouvernement égyptien avait fixé au
1er février 1938 l'ouverture des conférences en question (Conférence
télégraphique et téléphonique internationale, Conférence internationale
des radiocommunications).

D'autre part, l'article 17, § 2 (1) a), de la Convention inter-
nationale des télécommunications charge le Bureau de l'Union des travaux
préparatoires des conférences.

Parmi ces travaux préparatoires, l'un des plus essentiels
consiste à recueillir et à publier les propositions que les offices
désirent soumettre aux délibérations des conférences.

Ces opérations doivent être entreprises suffisamment tôt, afin

56c

que les offices disposent du temps nécessaire d'abord pour formuler leurs propres propositions, ensuite pour étudier les projets des autres offices, dans le recueil réordonné publié par nos soins.

Or, vous n'ignorez pas que dès décembre 1936, notre Bureau devra publier les rapports des administrations centralisatrices qui devront être discutés au cours du C.O.I.R. de Bucaresti, au printemps de 1937. Il aura donc à effectuer en même temps les travaux préparatoires du C.O.I.R. et ceux du cahier des propositions pour la Conférence internationale des radiocommunications du Caire. Dans ces conditions, il serait utile que ces propositions nous fussent remises au plus tard le 1er novembre 1936.

Nous avons pris contact à ce sujet avec l'Administration égyptienne, et, en accord avec elle, nous avons l'honneur de prier les Membres de l'Union de bien vouloir dès maintenant, en vue de la Conférence internationale des radiocommunications du Caire, préparer leurs propositions concernant

- 3
 - 4
- le Règlement général des radiocommunications et le Règlement additionnel des radiocommunications. Ces propositions devront nous parvenir en double exemplaire, écrites au recto seulement des feuilles et rédigées en langue française, jusqu'au 1er novembre 1936. Les offices qui auraient des propositions à faire au sujet de l'appendice 14 du Règlement général sont priés de les formuler en prenant pour base non pas la teneur de l'appendice 14 mais celle de l'avis n° 52 du C.O.I.R.

Dans l'intérêt commun, il y a grand avantage à observer le délai fixé ci-dessus.

De plus, pour permettre un examen approfondi des propositions et accélérer les travaux de la Conférence internationale des radiocommunications du Caire, il serait fort désirable que toutes les propositions que les offices désirent présenter figurassent dans le cahier des propositions et que, au cours de la conférence, seules soient encore déposées

965

des propositions tendant à modifier, à amender, à compléter ou à combiner des propositions antérieures.

Dans le même ordre d'idées, il est instamment recommandé que les propositions revêtent la forme du texte qu'elles visent à introduire dans le corps de l'un ou de l'autre Règlement.

*
* * *

Dès que les travaux d'impression seront terminés, vraisemblablement au printemps de 1937, nous adresserons le cahier d'ensemble des propositions aux offices intéressés. Nous prions les offices qui désireraient en recevoir des exemplaires en dehors de la répartition gratuite réglementaire, de bien vouloir en indiquer le nombre, afin que nous puissions régler le tirage en conséquence.

5

6 Veuillez agréer, Monsieur le Directeur général, l'assurance de notre haute considération.

Bureau de l'Union internationale
des télécommunications.

Le Directeur:

F. V. ERNST.